

諏訪の杜っ子

令和5年3月15日
福津市立福間小学校
文責 校長

人とつながって表現し、納得できる(笑い合う)子供の育成
コラボ&トライ

ふるさとの松原を守る 福間郷づくり植樹祭

「3月4日(土)に福間漁港側の松林で植樹祭が行われました。(1週間前には花見側でも実施されました)郷土のシンボルの一つである松林は、ふくまっ子にとって遠足や3年生の松林おすすめ散歩道、4年生の海岸の環境学習などでもふれあっています。また、秋の松林ウォークでも松



林の自然を味わっています。この松林は昭和40年以降は松くい虫による被害が大きくなり、また、松林自体も雑草でうっそうとしていたといわれています。2010年ごろから松林の保全活動が始まり見違えるようにかわったそうです。

植樹祭には、小中学生も参加しました。最初に枯れた松葉や枝を集め、植える場所をきれいにしました。それからいよいよ松苗を植えていきます。苗の土を移植ごてでたたき根をほぐして根付きやすくしました。砂を入れ支えの竹を添えて麻ひもで結んでいきます。支えの竹は風から守るように海側にさします。また、子供達には木の札が渡され、自分の名前やメッセージを書き込みました。参加者みんなで98本の松苗を植えました。

本年度の植樹祭のことを記した標柱も立てられました。そこには福間中学校、福間小学校の校名が記されていました。最後に参加者で標柱を囲んで記念撮影!

古賀から勝浦まで10kmにわたる松林は、他の地域の有名な三大松原に比べてもその規模は大きいものだそうです。福間の松林は海からの風や塩害からまちを守るだけでなく、地域の方の努力により、ふるさとの誇りにもなっています。その松林を維持し将来の松林を育む活動に子供達が自主的に取り組むことに大きな意義があります。

郷づくりを中心とする地域の方と一緒に活動し松林の未来に携わることは、子供達に自分の住むまちへの愛着を生みます。

子供達が大きくなったときに「この松原の松の中に友達と植えた松があるんだ」と言えることはすてきなことだと思いました。